

とぎつちよう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ちゅうがくねん む ねん はるごう
中学年向け 2025年 春号



「大阪万博1970」

おおさかばんぱく
藤川 智子/著 白井 達郎/監修 (ほるぷ出版)

いよいよおおさかばんぱく2025がかいさいされます。
みんなが生まれるずっとまえ、55年前にも大阪
ばんぱくがありました。そのとき、ようす
で万博がありました。その時の様子がわかる
えほんになっています。とうじ、あたらしいきじゆつ、つか
われていて、いろいろな展示があったそうです。
55年前の万博を知り、時代を経て開催される
おおさかばんぱく2025にもちゅうもくしてみよう！

うちどく 家読とは

かぞくみんなで好きなほんをよんで、よんだほん
について話す。これが「うちどく(家読)」
です。むずかしいルールはいりません。
かぞくみんなでルールを決めてはじめてみま
しょう。

かぞくおんなほんよ
家族で同じ本を読みあったり、おとうさん
やおかあさんによみかき聞かせをしたりと楽しい
時間をすごしましょう。



「グレイ・ラビットのおはなし」

アリソン・アトリー/作 石井 桃子、中川 李枝子/訳
(岩波書店)

はたらきもののグレイ・ラビットは、ちい
さいな灰色うさぎ。うぬぼれやの野うさぎヘアと、い
ばりやのリスのスキレルとくらしています。あ
る日のこと、悪いイタチがヘアとスキレルをさ
らっていきました。このままだと、2匹は食べ
られてしまいます。どうする、グレイ・ラビッ
ト！ハリネズミやフクロウ、モグラやキツネな
ど、さまざまな森の動物たちがくりひろげる、
ときどき楽しい物語です。

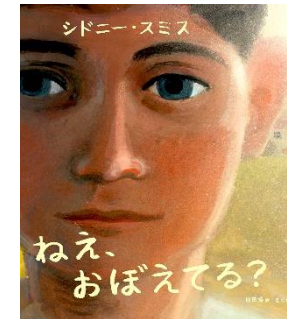


「つっきーとカーコのかぞく」

おくはら ゆめ/作 (佼成出版社)

ねこの「つっきー」とカラスの「カーコ」
は、おさななじみでいつもいっしょです。最近のカー
コは、はなうたをうたうくらいごきげんで
す。そのわけは、もうすぐカーコのかぞくがふえ
るから。でも、つっきーはそれを見るときちょっ
ぴり気持ちがしずんでしまいます。自分でもど
うしてなのかわからない、つっきー。

ある日、ふたりはおまつりにでかけましたが
…。



「ねえ、おぼえてる？」

シドニー・スミス/作 原田 勝/訳 (偕成社)

「ねえ、おぼえてる？」と誰かに聞いたとき、
「もちろん、おぼえているよ！」と答えてもら
えたら、なんだかうれしい気持ちになります。
たのしかった思い出、悲しかった思い出…。いろ
いろ思い出が、ごはんの栄養と同じように、
あなたやわたしを作っています。
しずかにしずかにここにしみこんで、そっと背
なかをおぼえてくれる絵本です。



「のんきなりゅう」

ケネス・グレアム/作 インガ・ムーア/絵
中川 千尋/訳 (徳間書店)

むかしむかし、なん百年もむかし、りゅうがほらあなにすんでいました。ある日、ひつじかいの男の子は、見かけはおそろしいけれど優しくてのんきなこのりゅうと、友だちになります。ところが、おびえる村人たちがりゅう退治をお願いした、聖ジョージが村にやってきてしまい…。男の子がりゅうを助けるために考えた方法とは？
よめば心が温まる物語です。



「ふるびたくま」

クレイ・カーミッシュル/作 江國 香織
(BL出版)

ある日、ずっとクララのお気に入りだった、ぬいぐるみのくまは、悲しくなりました。だって、すりきれて、おんぼろになってしまったから。他の動物たちは笑います。「お前みたいなぼろじゃ、はずかしいもんな」。そんなくまに、クララがしてあげたこととは…。作者のカーミッシュルが大切にまのためにした、本当にあったおはなしです。